

序 文

医療分野では、国際的にも EBM (evidence based medicine) に基づいた治療とそのためのガイドラインが必要となる時代になってきた。痛み治療の分野も例外ではなく、日本ペインクリニック学会では、学術委員会、治療指針検討委員会の下部組織として「インターベンショナル痛み治療ガイドライン作成チーム」を組織し、2012年から学会の事業の一環として『インターベンショナル痛み治療ガイドライン』の作成を開始した。

そして本年、2014年2月に、約2年の歳月をかけて、本ガイドラインが完成した。読者諸氏が、本ガイドラインにおける作成チームメンバーの意図するところと策定に際しての努力を汲みとり、本ガイドラインを有効に活用し、痛み診療に役立ててくださることを心からお願い申し上げたい。

本ガイドラインは、痛み診療に従事する医療従事者を対象とし、エビデンスに基づいた現時点におけるインターベンショナル痛み治療とその適応を示し、これを一般に公開し、医療従事者と医療を受ける側（患者・家族）との相互理解に役立てるべく、現在までに蓄積されたその根拠を示している。今回のガイドライン策定で一番重要なことは、この治療にはこのようなエビデンスがある、ということを示すことと考えている。エビデンスに乏しい治療法では、そのことを記述し、評価が定まっていない治療法については注釈をつけている。また、本書に記載されていない治療法が行われることを制限するものではない。

本ガイドラインの策定方法について述べる。

本ガイドラインは、該当する治療法に関する文献検索により抽出されたエビデンスの高い論文を吟味し、適切な CQ (clinical question) を設定後、その CQ に対する回答を、推奨度を追加して記述するという、現在のガイドライン策定の主流となるルールに基づいて作成することとした。そのため、「インターベンショナル痛み治療ガイドライン作成チーム」は、度々のコンセンサスミーティングを開催し、国内外のガイドラインやエビデンスを吟味し、議論を重ね、まずそのたたき台を作成した。広範囲な学術論文の検索から得られた、有用な論文について厳密な査読を行い、信頼性を評価した上で作成された。論文のエビデンスレベルは、国際医学情報センター「Minds」と『ペインクリニック治療指針』のレベルを併用した。論文のエビデンスを根拠とする本ガイドラインの推奨レベルは、「A：強く推奨する」から、「I：チームの審査基準を満たすエビデンスがない、あるいは複数のエビデンスがあるが結論が一律ではない」とした。痛みの医療においては、医学の進歩に伴い、従来から行われてきた治療法は、今後、劇的に変化する可能性がある一方で、種々の治療法が科学的根拠の検証を行うことなく選択されている。そこで、上述のたたき台を基に、理事、評議員からの意見、講評を参考として検討を加え、最終的に理事会、評議員会の合意が得られた結果を本ガイドラインにまとめたが、痛みの医療においては、ガイドラインを個々の患者に短絡的に当てはめてはならないことを強調したい。

本ガイドライン作成に際しては、多くの方々の得がたいご協力を得た。

「インターベンショナル痛み治療ガイドライン作成チーム」メンバー、コアメンバー、学術顧問とオブザーバーの諸先生方には、度々にわたる会議、原稿作成でお世話になった。また、メールでの激論も交わした。深く感謝の意を表したい。理事、評議員の諸先生方からも多数の貴重な意見を頂戴した。また、文献検索の実務の面では、(財)国際医学情報センターに無理難題を快くお引き受けいただいた。

本ガイドラインは、日本ペインクリニック学会代表理事、小川節郎先生、作成チームの上部組織委員長である奥田泰久先生、大瀬戸清茂先生の御支援、御配慮がなければ、元より日の目をみるに至らなかった。学術顧問の奥田泰久先生、大瀬戸清茂先生、萩原正洋先生、オブザーバーの村川和重先生、宇野武司先生、羽尻裕美先生とすべての諸先生方に、この場を借りて、感謝の意を表す。また、アドバイザーとして様々な示唆をいただいた名郷直樹先生（国際医学情報センター顧問、武蔵国分寺公園クリニック院長）にお礼申し上げる。多くの示唆をいただいた日本ペインクリニック学会会員の皆様に感謝の意を表す。

今回作成されたガイドラインは、EBM 情報を踏まえて概説したものであるが、有効で効率的な治療への第一歩であると考えられる。インターベンショナル痛み治療に関する論文には英語、日本語ともに質の高いランダム化比較試験（randomized-controlled trial：RCT）が少ない。ただ、現在、科学的な臨床研究により新たな臨床治験が出現してきており、今後、定期的に改訂を試みなければならない。

また、最後に、本ガイドラインは治療方針の作成、専門施設への紹介判断などに使用されることを目的として作成されたものであり、その他の状況（補償や訴訟など）で使用すべきものでないことをここに明記する。

平成 26 年 2 月

福井弥己郎(聖)

一般社団法人 日本ペインクリニック学会

「インターベンショナル痛み治療ガイドライン」作成チーム

チームリーダー